

OP-76

卵子成熟障害例に対して卵胞刺激により12~14mmまで卵胞発育させたのち、未成熟卵を採卵し、体外成熟培養 - ICSI-HRC Cryo ETにて出産に至った1例

レディースクリニック北浜

上田鈴、今井和美、幸寺渚、貴志瑞季、中西裕子、奥裕嗣

【目的】

IVMは通常、卵胞径約10mmの小卵胞が2個以上確認できたのち、無刺激または少量のFSH/hMG投与により、主席卵胞出現前に8~10mmの卵巣小卵胞を採卵し、体外成熟させた卵子に体外受精を行い、胚移植を行う方法である。今回、卵子成熟障害例に対して5日間の卵胞刺激を実施し、12~14mmの卵胞に発育した小卵胞を採卵し、これを体外成熟培養したのち、ICSI施行後、ホルモン補充周期にて胚移植を行い出産に至った1例について報告する。

【症例】

当院初診時 夫：40歳 妻：32歳（2011年6月） 不妊原因：成熟障害

<治療経歴>

・前医にて6回の採卵を実施（2009年7月~2011年2月）（表1）。
→成熟卵少なく、ICSIするも、胚質不良もあり妊娠に至らず。

・うち1回は通常のIVMを実施。
→未成熟卵を4個採卵できるもすべて成熟せず。

・2011年当院にて2回の採卵を実施。
-1回目採卵（2011年8月）-
Antagonist周期にて15個採卵するもすべて未成熟卵の為ICSIキャンセル。

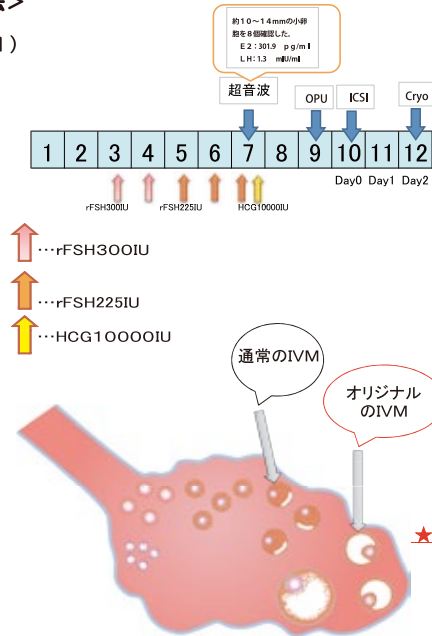
-2回目採卵（2011年9月）-
当院オリジナルIVMの方法にて採卵を実施。採卵数6個。

（表1）

採卵回数	卵巣刺激方法	採卵個数	成熟卵数	受精数	受精法	胚移植	妊娠判定
1	自然周期	1	0	0	キャンセル	/	/
2	Agonist周期	8	1	1	ICSI	Fresh-SET(分割胚)	陰性
3	自然周期	5	1	1	ICSI	NC-Cryo SET(分割胚)	陰性
4	Antagonist周期	10	1	1	ICSI	HRC-Cryo SET(分割胚)	陰性
5	IVM	4	0	0	キャンセル	/	/
6	Agonist周期	19	0	0	キャンセル	/	/

<方法>

（図1）



（表2）

	Day0	Day1	Day2
1	M II	OPN	G1-4
2	M II	2PN	G1-4
3	M II	2PN	G2-5
4	M I	ICSIキャンセル	/
5	GV	ICSIキャンセル	/
6	GV	ICSIキャンセル	/

★通常の採卵針18Gまたは19G(北星メディカル)を使用

rFSH 300IUを(月経周期5日目から225IUへ減量)月経周期3日目から7日目まで連続投与し、卵胞発育を行い、卵胞径12~14mmでHCG 1000IUを投与後、37時間後に採卵を行った(図1)。

採卵した未成熟卵6個をすべてMedicult IVM® System(Medicult社)にて24時間培養したのち成熟確認できた3個の卵子にICSIを施行(図2)。Day2にて3個の分割胚を凍結した(表2)。その後、ホルモン補充周期にてDay2 DET(G1-4, G1-4)を行い、妊娠に至り、39週3日、3396gの女児を出産した。

【考察】

通常のIVM-IVFに対して、卵胞刺激により12~14mmまで卵胞発育させ、IVM-IVFを実施する方法は通常の18、19Gの採卵針にて採卵が可能で、採卵手技も容易で、採卵数の増加も期待でき、刺激周期における卵子成熟障害例に非常に有効な方法であると考えられる。